

子宮頸がんについて 20歳から2年に1回、子宮頸がん検診を受けましょう。

【20歳代後半から子宮頸がんになる女性が増加】

子宮頸がんになる人は20歳代後半から増加し、30歳代後半から40歳代が多くなるため、若いうちから検診を受けることが大切です。

また、早期のうちは症状がほとんどないため、「子宮頸がんにかかっている」と自分で気が付くことは困難です。

2年に1回の定期的な検診の受診により、早期のがんや、がんになる前の状態で発見することができます。



※上皮内がんを除く

出典: 国立がん研究センター

がん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)

乳がんについて

40歳から2年に1回、乳がん検診を受けましょう。

【日本人女性の9人に1人がなるといわれるがん】

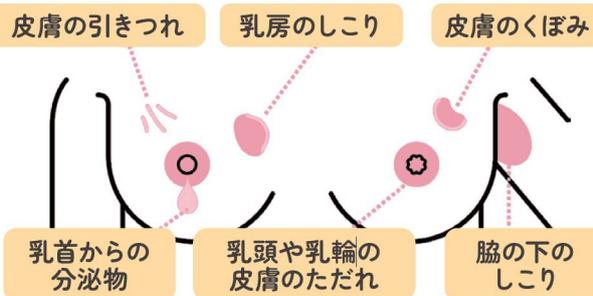
最も多くの女性がかかるがんですが、早期発見・早期治療による10年後の相対生存率は90%以上※です。乳がんを早期診断するためには、日頃から乳房の状態を意識する生活習慣＝「プレスト・アウェアネス」が大切です。「プレスト・アウェアネス」は、検診対象世代でない女性にとっても大切です。

※出典: 公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計 2023」

<プレスト・アウェアネスの4つのポイント>

- ① 普段から乳房をチェックして、自分の乳房の状態や月経周期による変化を知っておきましょう。
- ② 乳房の変化に気を付けましょう。
- ③ 気になる変化に気づいたときは、検診を待たずにすぐに乳腺外来のある医療機関を受診しましょう。
- ④ 自覚症状がなくても、40歳から2年に1回、定期的に検診を受診しましょう。

<乳房を見るときや触るときに注意すべき変化>



大腸がんについて

40歳から1年に1回、大腸がん検診を受けましょう。

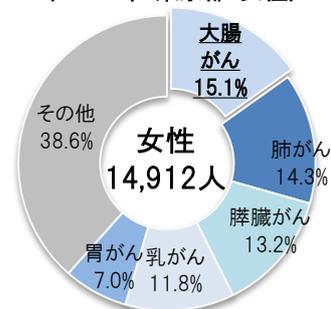
【都民女性のがんによる死亡原因の第1位】

都民のがん死亡者数を部位別に多い順で見ると、女性では大腸がんが第1位となっていますが、早期発見・早期治療による5年後の生存率は90%以上※です。

早期のうちはほとんど症状がないため、定期的に検診を受診することが大切です。

※出典: 公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計 2023」

都内のがんで亡くなった人の部位別割合
(2024年・東京都・女性)



出典: 東京都保健医療局「人口動態統計」(令和6年)